

はじめに - 労働法の意味 -

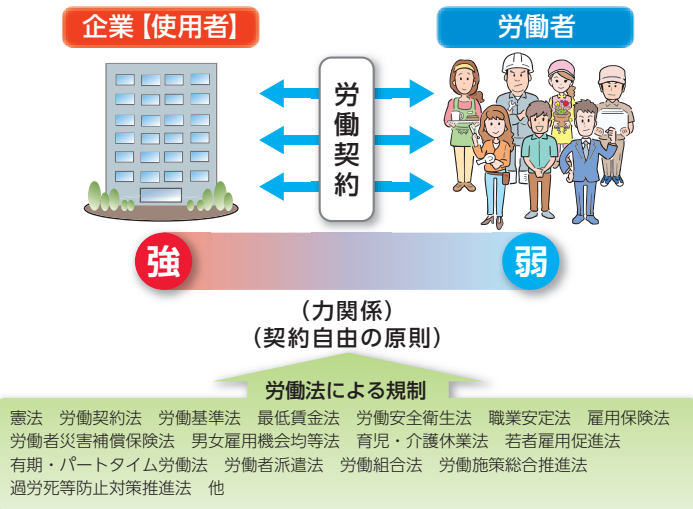
学校を卒業して会社等に就職すると、事務所・工場・店舗などの職場に配属され、1日8時間等の決まった時間、使用者や上司の指示に従って働くこととなります。

自分で事業を経営するなどの一部の人を除き、大部分の人は、生活するため、誰かに雇われて働かなければなりません。就職して仕事をするということは、法的には、企業との間で「企業の業務命令に従って働きます」・「賃金を支払います」という約束をして、お互いにその約束を守り続けることを意味します。

一般的に、働く人より、雇う人の方が有利な立場にあり、働く条件や環境などは雇う人の思いどおりに決まりがちです。

そこで、働く人の健康や安全を守り、また人間らしい生活を送ることができるときのルールとして労働法（労働基準法をはじめとする労働関係法規の総称）が発展してきました。

労働法の知識を持っているかないかで、そのあとの判断が全く変わってくることもあります。労働トラブルを回避したり、巻き込まれた際に適切に対処したりするためには、労働法についてよく知っておくことが非常に重要です。



また、新型コロナウイルス感染症の影響により、企業の採用活動におけるオンライン化の普及など、学生の就職活動を取り巻く状況が大きく変化しました。このような状況の中で、納得のいく就職活動を行うためには、十分に考え抜いた選択をすることが大切です。